

あつちこつちの秋の嵐



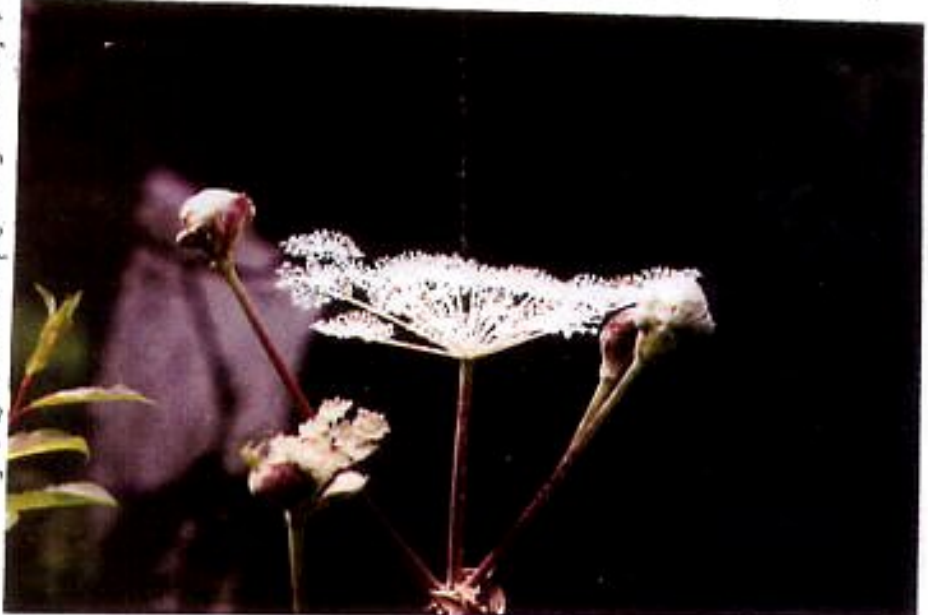
いやら暑い八月
だつたなあ。三
十度、四十度と高
温の二ヶ月がとつ
たに、暑さ。
祖谷でつて、夏本
番どしたか、嵐とい
うか空気が、瞬間
とは違います。
不意に入れば、あつ
ちと温度が下がりま
す。

13.9.No195
発行 上野田駅
責任 0883-88-5292
夏は、祖谷は天
国の様(行く)を事
い(け)と。ごま。
これを田舎です。
街へは人が行きな
くありません。

秋の嵐を感じられます。
雨ごとに秋が深まるとい人のどくまつ。
に、時間の流れは、日々早くなるとま
聖なる時間なんではないようなの。
人は、時間という時の流れを表現できる様
に、その時間に追いついて生きていく様
なもので、みんな変化するよ。どうよ。
とどかん、季節の変化を、自然の中で感じ
て暮らしていきけるのは、幸せなこと
です。秋を拾うと秋になりにます。

くありません。
そのどくまつぬくのも、たまらん
のしという念話か日常。
それら、は日すぎると風向きが変
りましてよ。
日中、草刈りをして、汗をか
いて、気持ちに余裕ができてます。
気がつけば、アブラセミの音が
ほとんどの南へはななくりました。
キリギリスも、みんながぼんやりと
鳴いています。
そして、草刈りでは、名前が知り
ませんが、虫たちの事が多くは
じめました。家の中に、虫に
とつたりやが飛んで来るように
もなるとま。朝晩は、Tシャツでは
よつと涼しくする程。
空も、上の空の、様な暑さがみ
られるようになります。あつちこつち

たのきは
ふん蔵書にちる虫。
秋摺子



夜と長くなるので、読者の時間が多
なり、この秋の嵐をBGMに、蚊に
それら、虫たちの合唱をBGMに、蚊に
まていかに読めるのだから、言
りません。
面白い本、泣ける本だけどもなく、本
ヤニルを聞いませぬので、送る
う、嬉しい短りです。え、本
絵本や童話でも心にしみるのがあ
して、本との出会いも、秋の
のかをし知れませぬ。
……という事で、本当に勝負
夏が来れば「暑い」と言い、雨
は雨をいとし、降れば降れば
冬になれば、春を待つ、自然
生きつければいけな、いつ
している様に考えこま。ほんま
に勝ちの生き物の人間一人ある